

令和5年度 自己評価表

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値		目標値		評価（自己評価の結果）		改善策
				令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度	中間	最終	
【確かな学力】 児童の学び方の変革を促し、学力・学習意欲の向上を図る。 自分で学習する力 自由進度学習の充実と継続	・児童が主体的に学習する態度を育てる。 ・児童の理解程度や興味関心に応じた学習を展開する。 ・児童一人一人の学びの段階に応じた学力を身に付けさせる。	○個別最適な学びの実現のため、学習計画表をもとに自立学習、自由進度学習に取り組む。児童の選択と決定を大事にし、主体的に学習に取り組む児童を育てる。 ○ICT（Qubena等）を積極的に活用し、練習量を増やしたり、自主学習を深化させたりする。	・児童の自由進度学習の満足度（アンケート） ・国語・算数の単元末テストの通過率 平均80点以上の児童の割合 ・市教委実施の学力調査における各教科の目標値を超える児童の割合	・満足度 86.8% ・国語 91% ・算数 74% ・国語 77.8% ・算数 85.3% ・理科 84.0%	・学習満足度 85% ・国語 85% ・算数 75% ・国語 80% ・算数 80% ・理科 80%	・学習満足度 87.9% ・国語 85% ・算数 74%	・学習満足度 91.9% ・国語 80% ・算数 85% ・国語 60% ・算数 67% ・理科 77%	自由進度学習での、自己選択や自己決定のある授業づくりでは児童が意欲をもって学習に取り組んでいる。学習のゴールを明確にし、単元導入時に学習の見通しを持たせることがさらに必要。 学力テストは、昨年度の実績値より目標値を達成できた児童が減った中、5年生の理科では全員が目標値を達成することができた。その理由として、自分からやりたい、学びたいと意欲的に学習できたことが考えられる。「児童が意欲的に取り組む」授業づくりが必要である。また、時間内にテストが終わらない児童がおり、読解力を並行して付けていくことが課題である。		
【豊かな心】 児童の豊かな心と協働を基軸とした人間関係を育成する。 協働する力 総合的な学習の時間の充実	・協働的な体験活動を推進し、協働する力を育成する。 ・道徳教育を充実させる。	○イエナプラン教育を参考にした、中・高学年の異年齢集団での総合的な学習の時間を充実させる。 ○生活科と総合的な学習の時間に地域に密着した探究的な課題を設定し、体験的な異年齢合同学習を行う。 ○縦割りグループによる活動、集団遊び、小中合同の活動等を積極的に設定する。 ○活動後に振り返りと肯定的相互評価活動を実施する。 ○考え議論する道徳教育を推進する。	・自分のよさがわかる児童の割合 ・友達のよさがわかる児童の割合 ・認められていると感じた児童の割合（児童アンケート） ・他の学年の友達と協力して取り組むことができたと感じた児童の割合（児童アンケート）	・自分の良さがわかる 72.9% ・友達の良さがわかる 91.7% ・自分が認められている 81.9% ・協力して取組めた 65.7%	・自分の良さがわかる 78% ・友達の良さがわかる 94% ・自分が認められている 85% ・協力して取組めた 75%	※昨年比 ・72.0 (-0.9) ・96.0 (+4.3) ・80.0 (-1.9) ・87.7 (+22.0)	※目標値比 ・79.6 (+1.6) ・97.9 (+3.9) ・81.6 (-3.4) ・91.8 (+16.8)	「自分のよさがわかる」「友達のよさがわかる」の割合は、目標値を達成できた。その要因として、企画委員会が考えた「全校ターゲット」で、くじで引いた児童のよさを直接相手に伝えたり、縦割り班対抗の「長縄跳び大会」に向けて、休憩時間に練習したりするなど、異学年が関わり合う活動を意図的に仕組んだこと、総合的な学習の時間の充実などが考えられる。 「自分が認められている」という項目の割合は、目標値の85を達成できなかったが、中間発表での数値より1.6ポイント上昇した。「みたか発表会」や「学習発表会」後に、児童や教職員、保護者、地域の方からのメッセージカードを掲示する活動を通して、よさを認められたと実感できた児童が増えたのではないかと考える。 道徳では、全学年で中学校の教員とのT・Tを行った。事前の打ち合わせにより、教材を分析したり、主発問について検討したりできた。自由な雰囲気発言できるような場を設定し、考え議論する道徳に近づいた学級もある。		
【健やかな体】 生活習慣の基礎を培うとともに、児童の体力を向上させる。 自立した生活を目指した取組の充実	・基本的な生活習慣を確立させる。 ・体力・運動能力を向上させる。	○基本的な生活習慣定着のための保健指導を行うとともに、保護者啓発に取り組む。 ○体幹を鍛え、体の全体的なバランスを高めるために、「チャレンジ10」を体育や体育朝会の準備運動として行う。 ○体育朝会に体力の課題に即した、トレーニングを取り入れる。 ○体力づくりコーナーを設置する。	・基本的な生活習慣に関する肯定的評価の割合（児童アンケート） ・6時30分までに起床 ・朝食に野菜を食べる ・メディアを2時間以内 ・9時から10時までに就寝 ・体力テストを年2回実施し、4種目について、前回の記録を上回った児童 □握力 □上体起こし □長座体前屈 □ソフトボール投げ	・起床 72.9% ・朝食 81.3% ・メディア 68.8% ・就寝 79.2% □握力 □上体起こし 59% □長座体前屈 □ソフトボール投げ	・起床 75% ・朝食 85% ・メディア 70% ・就寝 80% □握力 90% □上体起こし 69% □長座体前屈 78% □ソフトボール投げ 61%	・起床 78% ・朝食 72% ・メディア 72.5% ・就寝 74% □握力 90% □上体起こし 63% □長座体前屈 80% □ソフトボール投げ 56%	・起床 64.6% ・朝食 75% ・メディア 60.5% ・就寝 77.1% ※R4年度との比較 □握力 90% □上体起こし 63% □長座体前屈 80% □ソフトボール投げ 56%	生活リズムカードの実践や体重測定時の保健指導、保健だよりでの保護者啓発を実施した。朝食・就寝は中間評価より上昇したが、各項目すべてにおいて目標値に到達しなかった。今後も生活リズムを整える大切さについて、保健指導等を実施するとともに、外遊びについても、保健体育委員会で下駄箱チェックを取り入れるなど、工夫をしていきたい。また、メディアについては今後、専門家による講演を実施、保護者啓発を図っていきたい。 体力向上について、体力テスト2回目の実施できなかったため、R5年度1回目とR4年度の結果を比較した。ソフトボール投げや上体起こしのように、日頃の練習が必要な種目が課題となっている。一方で、持久走大会や長縄跳び大会などを企画したことで、休憩時間中の外遊び・運動量が増加したため、継続していきたい。		
【信頼される学校】 保護者・地域からの信頼に応える。	・保護者や地域が協働しやすい環境をつくり、学校満足度を向上させる。 ・働き方改革をすすめる。	○学校だより、学級通信、保健だより、classroom、HP等により、学校や児童の活動の様子を分かりやすく発信する。 ○保護者からの相談は、迅速かつ丁寧に対応し、報告・連絡・相談・確認を確実に行う。 ○会議は必ず終了時刻を設定して行う。	・学校満足度に関する肯定的評価の割合（保護者アンケート） ・働き方改革に対する満足度が80パーセント以上（職員アンケート）	学校満足度 保護者 97.8% （よく 50.0%） 職員 89% （よく 44.4%） （やや 44.4%）	学校満足度 保護者 100% （よく 70%） 職員 90%	学校満足度 保護者 97% （よく 51%） 職員 89% （よく 33.3%） （やや 55.6%）	学校満足度 保護者 96.0% （よく 56.0%） 職員 100% （よく 36.4%） （やや 63.6%）	学校は学校や児童の様子を分かりやすく発信している。（よく68.0% やや32.0%）引き続きHPや学校だよりなどで学校の取組をタイムリーに発信し保護者の理解を得る。 思ったことが言いやすい、風通しの良い職員室づくりに努め、業務改善につなげていく。		

